

したい

建白書(提案者より自己の建白書案を朗讀)

別紙の通り決定

6、祝電披露

大日本護國軍第三軍團(門司) 外二通

7、閉會後直ちに總演會閉會

○講演會

大日本護國軍 中國本部長 青木作雄

政府は天皇機關説に對し全國民の輿論を極端に輕蔑され、美濃部博士の著書發賣禁止其他機會ある毎に入念な訓辭を行ひ又司法當局では出版法違反として司法廳分府に付せんとしてゐる、鈴木政友會總裁或は林陸相も首相に對し決意を促した、東報の新聞には大体この

問題も是がついた様に對してゐるが吾々は何故茲に大會を開き進求する必要があるか、政府は勿論機關説はいけないと言ふがそれを通じて國民に如何なる影響があるかと言ふ事には對しては少しも意見を發表してゐない、國民が納得する様に説明してゐない、天皇機關説を排撃する所以のものは、天皇の地位を國家の一機關として天皇と議會と相對立せしめ、注意、法律とは個人、個人の自由を或程度迄制限する爲のものである。フランス革命當時の自由と言ふものは日本人では想像も出來ない程であつた、西洋の歴史は常に君主の力を削取してゐる、又これを擁護する學説が非常に進歩したこの思想が自由主義、民主主義であるこの思想を背景としたものが即ち財閥だ、斯くの如き思想を其の儘日本に取入れた事が天皇を機關とする、中止

九州日報顧問 陸軍大佐 高橋清作